

地区でやれないなら、村全体でやりくりしましょう

葬式料理請け負い隊

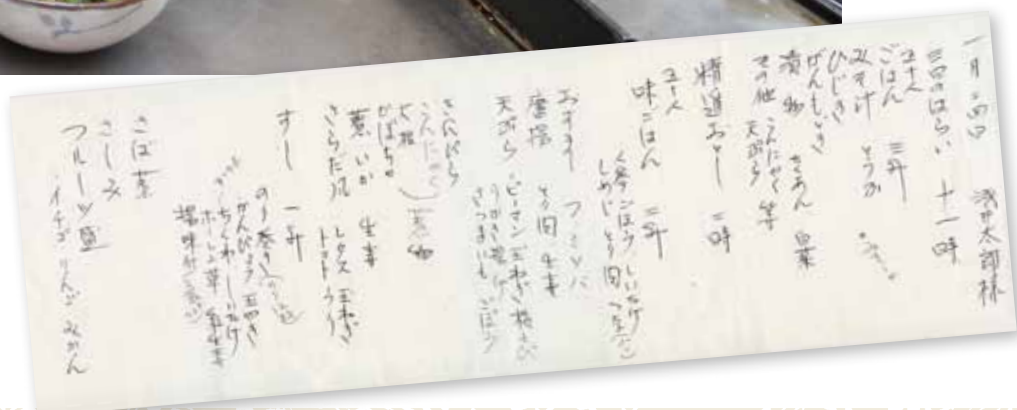
長野県根羽村・菊の会

文=編集部 写真=尾崎たまき

「菊の会」は、村の女性たちによる、村人のための、葬式料理請け負いグループ。食材は家にあるものや地元のものを使い、住み慣れた村から見送る、葬式の仕組みをつくった。



「三日の祓い」と「精進落とし」の献立表。弔問客の人数と、米や味噌の分量を書き、調理室に貼り出す。基本のメニューは変わらないが、季節によって手に入る食材が変わるので、その都度調整する





根羽村のお墓は、自宅から近くて見晴らしがよい場所に建てられていることが多い



人口約1100人、約450世帯。高齢化率は45%。村の面積の9割が森林を占める、林業と農業の村

「2006年の夏だったかな？一番初めに葬式を村の外でやったのは」と、菊の会代表の田中きく江さん（76歳）は、村の葬式事情を振り返る。

根羽村では昔から自宅で葬式をしていたので、斎場がない。葬式となれば、祭壇は葬儀屋が用意するが、地区の人たちが故人宅に駆けつけていろいろ手伝うのが習わしだった。とくに重要で大変なのは、女性たちによる食事の準備。

葬式弁当を捨てることになるなんて

「村外で葬式したその家では、折り弁当を葬儀屋に注文したそうだけれど、人数がわからないから、少し多めに頼んだって。結局それぞれ15個くらい余って、全部捨てちゃったつちゅうの。一食2000円以上はするし、食べものを捨てるなんて嫌だけど、暑い時期だったし捨てるしかなかったって、後

食事は通夜の晩に出す「通夜ぶるまい」と、葬式当日の式前後に出す2回の合計3回ある。食材集めから調理、配膳に後片付けまで2〜3日かかり、地区の女性たちの負担は大きい。



菊の会のメンバー（一部）。中央がオレンジ色の髪がトレードマークの代表・田中きく江さん。調理室のコンロは2台。客が多いときはカセットコンロを出して対応する